

カリッソーCSRレポート

2026



KARITSU

すべてのステークホルダーの皆さまに 「安心」と「信頼」を提供し、社員が「誇り」と 「よろこび」を感じられる企業をめざします

当社は、1951 年（昭和 26 年）2 月の創業以来、半世紀以上にわたり地域の皆さまとともに歩み、おかげさまで 2026 年（令和 8 年）には創業 75 周年を迎えることができました。

しかしながら、足元の経営環境は数年来の人手不足や物価高に加え、中東地域からのエネルギーや原材料の供給制約により、一層先行き不透明な状況が続いております。

このような環境下においても、皆さまに最高の安全・品質とサービスを提供できるよう、「人と仕組みで、信頼を進化させる」をコンセプトとした中期経営計画を策定し、新たな取組みに挑戦していきます。

当社は、企業理念に「我々は社業を通し、良き企業市民としての良識をもって地域社会に貢献する」をかげ、C S R 経営を推進しております。

この度、C S R に関わる取組みについて、2025 年度の活動を中心に本レポートにまとめましたので、ご報告させていただきます。

今後も事業活動を通じた C S R 活動に取組み、ステークホルダーの皆さまのご期待に応えられるよう努めてまいりますので、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026 年 7 月
カリソー株式会社
取締役社長 筒井 重式



カリツー C S Rレポートについて

目 次

カリツー C S Rレポートについて	2
1. 概要	4
2. 安全・品質	6
3. 環境	16
4. 社会	24
5. コーポレートガバナンス	36

カリツー株式会社に係わる全ての皆さまに、当社の C S R（企業の社会的責任）に対する姿勢と取組みについて理解を深めて頂くため、カリツー C S Rレポートを発行しております。

今年で 14 回目となります本レポートでは、2025 年度（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）の活動についてご報告させていただきます。

2025 年度主なトピックス

■ AEO（Authorized Economic Operator）取得

2025 年 5 月 30 日、名古屋税関より AEO 通関業者として認定され、6 月 3 日、認定書の交付を受けました。

法令遵守及びセキュリティ管理の体制を構築した AEO 通関業者として、リードタイム短縮・物流コスト削減による国際競争力の向上に取組むお客様をサポートします。

AEO 取得



■ 海外への進出

2025 年 10 月、邦昇物流天津有限公司と合併会社調印式を開催しました。

2026 年 2 月 11 日、インドのカルナカタ州ベンガルールにインド法人 KARITSU LOGISTICS INDIA PRIVATE LIMITED を設立しました。

合併会社調印式



■ 営業拠点の開設等

2025 年 7 月、東京オフィスを開設しました。

AI をはじめとする最新の IT 情報が集まる東京圏を拠点に、IT 活用の知見を積極的に収集し、迅速な DX に取り組んでいます。

また、新拠点を活用することで営業力を強化し、一般貨物輸送事業のさらなる拡大を目指していきます。

インド法人設立



安全・品質の向上

交通事故・製品事故・労働災害の防止のため、安全に関する計画を立て実施しています。

品質の向上のため、教育訓練の実施など、力量の向上に取り組んでいます。



○定期的な訓練の実施と定着確認

実際の作業環境を模した訓練場などで、定期的な訓練に取り組み、IT 端末を活用した現場巡視により定着状況を確認・共有しています。

また、トラック・フォークリフト大会の開催や出場を通して、一人ひとりの力量 UP に努めています。

○職場環境の整備

職場巡視などを通じて、職場環境の問題点を洗い出し、事故防止と働きやすい職場づくりを推進しています。

環境への配慮

再生可能エネルギーの導入により、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。



○太陽光発電設備の導入

環境負荷低減と地域社会への貢献のため太陽光発電を導入し、再エネ普及を推進しています。

○燃費向上に向けた取り組み

省エネ運転などの教育を通じて、燃費向上に取り組んでいます。

社会貢献

交通安全教室や市との災害協定の締結・災害訓練などを通して、地域社会の貢献に努めています。



○地域の交通安全への取り組み

交差点での立哨を定期的実施しています。

小中学校で開催される交通安全教室へトラックを提供し、地域の交通安全活動に貢献しています。

○社会貢献活動

市との災害協定の締結・災害訓練、NPO や芸術・スポーツ団体、地域イベントへの協賛等を行っています。

1. 概要

(1) 理念・方針

■ 企業理念

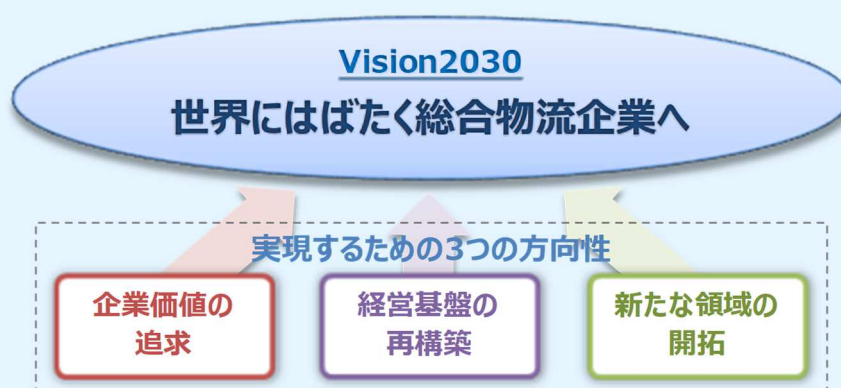
1. 我々は社業を通し、良き企業市民としての良識をもって地域社会に貢献する。
2. 我々は常に新しい価値の創造に努め最高の品質、最高のサービスをもって業界ナンバーワンを目指す。
3. 我々は「企業は人なり」の信念のもとに、人間性を尊重し常に研鑽に励み自由でかつ達な社風づくりに努める。

■ 安全・品質・環境方針

基本方針

1. 我々は、安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識して関係法令等を順守し、全ての業務の安全性向上に努め、無事故、無災害を達成する。
2. 我々は、常に新しい価値の創造に努め最高の品質、最高のサービスをもって業界ナンバーワンを目指す。
3. 我々は、物流を中心とした全ての企業活動において、環境負荷をできるかぎり低減することで社会に貢献する。

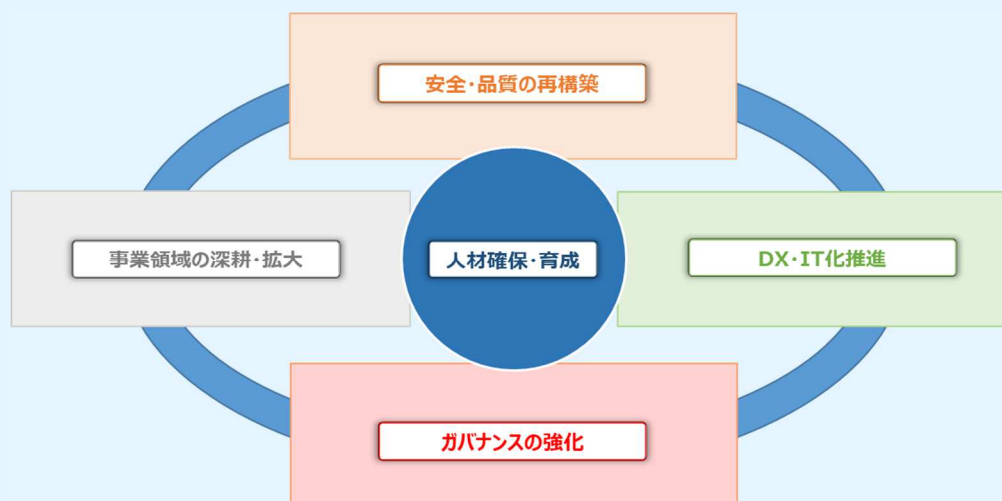
■ カリツグループビジョン「Vision2030」



■ 中期計画

□ コンセプト

人と仕組みで、信頼を進化させる



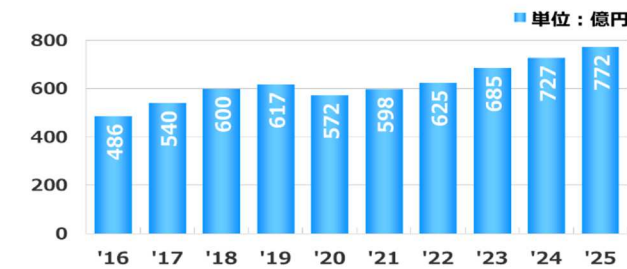
(2) 事業概要 (※1)

会社概要

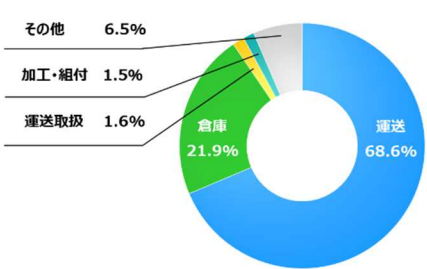
■ 社名	カリツー株式会社		
■ 本社所在地	〒446-8540 愛知県安城市三河安城町 1-4-4 TEL:0566-73-5600 FAX:0566-73-5606		
■ 創業	1951 年 2 月 28 日	■ 資本金	75,000 千円
■ 社員数	2,931 名		
■ 車両保有台数	1,842 台	<内訳>	■ 大型（5t 車以上）：847 台（牽引:67 台 被牽引:47 台） ■ 小型（5t 車未満）：207 台 ■ フォークリフト：788 台
■ 営業種目	■ 貨物自動車運送事業 ■ 倉庫業 ■ 加工組付け業 ■ 作業請負事業 ■ 旅行業 ■ 通関業 ■ 労働者派遣事業 ■ 利用運送事業<JR 貨物> ■ 荷造包装業 ■ 自家用自動車管理業 ■ 特定信書便事業 ■ 太陽光発電売電事業 ■ 産業廃棄物収集運搬業 ■ 運送取次事業 ■ 代行納入業 ■ 不動産賃貸業 ■ 貨物軽自動車運送事業 ■ カリツー安全教育研修センター ■ 損害保険代理業		
■ グループ会社	■ 光徳運輸株式会社 ■ 大和高速運輸株式会社 ■ カリツー東日本株式会社 ■ 日豊高速運輸株式会社 ■ カリツーオートテクノ株式会社 ■ カリツー北海道株式会社 ■ 光徳商事株式会社 ■ 千幸開発株式会社 ■ カリツー九州株式会社		
■ 子会社			

企業データ

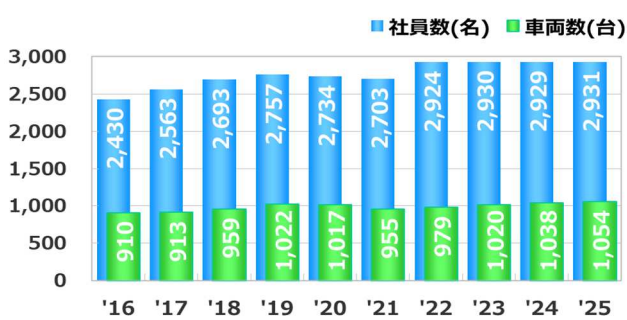
■ 売上高の推移（単独）



■ 売上高の構成



■ 社員数・車両数の推移



■ 倉庫面積

地域	倉庫面積 (単位㎡)
愛知県内小計	381,504
北海道圏小計	4,755
関東圏小計	24,635
関西圏小計	4,295
中国圏小計	9,236
全社合計	424,425

※1 2026 年 3 月末時点

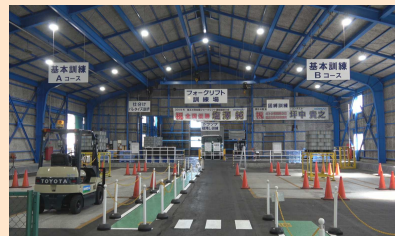
2. 安全・品質

■ 安全教育研修センターの活用

安全教育研修センター



安全教育研修センター 倉庫内



安全教育研修センター ラッピングトラック



カリュー安全教育研修センターを 2021 年 1 月に移転以後、実際の道路環境を再現したトラック訓練場を新設するとともに、フォークリフトの基本・応用訓練から過去のトラブル対策のルール・禁止事項の徹底および多様化する業務に対応できる教育訓練を実技・座学ともに導入しています。

安全教育のプロフェッショナルが集結したセンターにて、協力会社を含めたオールカリューでの安全品質の向上を図っています。

座学



座学・実技訓練の強化

(1) 座学

- ① 大型モニターを使用した研修
- ② 新人教育で基本ルールを研修
- ③ 水平・隣接確認の重要性を重点に研修

棚入れ訓練



(2) 荷主製品・環境特性に特化した訓練

- ① 鉄パレット（油漏れ）の訓練
- ② 長爪の訓練
- ③ 棚入れ訓練

【基本訓練】隣接確認教育訓練



【応用訓練】マルチカメラを用いた訓練



リヤオーバーハング訓練



乗車 KYT 訓練



協力会社 1日間研修



(3) フォークリフト基本訓練

- ① 事故対策のトラップ訓練
- ② 隣接確認姿勢の教育（上下左右）
- ③ 隣接（奥）確認の教育
（見えない箇所の把握方法）
- ④ ローラー投入、取出し訓練
- ⑤ ウォーキー訓練
- ⑥ ハンドリフト訓練
- ⑦ 製品転倒体感訓練（奥隣接）
- ⑧ スロープ訓練
- ⑨ バック搬送訓練
- ⑩ シャッター通過訓練
- ⑪ 時間制限を設けた訓練

(4) フォークリフト応用訓練

- ① マルチカメラを用いた訓練
- ② LED 隣接確認訓練
- ③ トラップ訓練

(5) トラック実技訓練・点検訓練

- ① 交差点進入方法、危険箇所の把握、
徐行、最徐行、一旦停止の教育
- ② 死角の把握、死角を減らすための姿勢、行動教育
- ③ 障害壁を設置した交差点死角訓練
- ④ 接触ボールを設置したバック訓練、縦列駐車訓練
安全な後退方法と後方感覚を養う
- ⑤ オーバーハング・リヤオーバーハング振出・死角訓練
トラックを使用し内輪差・死角等を認識する訓練
- ⑥ 夜間訓練
夜間走行時の視認距離、蒸発現象の訓練
- ⑦ ホイールナットの弛み確認訓練
- ⑧ リアデフの油漏れ確認訓練
- ⑨ 乗車 KYT 訓練

(6) 協力会社 1日間研修

初めて当社業務に携わる協力会社の乗務職には新規雇用者（協力会社）1日間研修として業務における基本ルールやフォークリフトの基本操作等を教育し、協力会社を含めたカリツー全体の安全・品質向上に努めています。

■ 運輸安全に関する計画

具体的な計画を立て実行し、継続的に取り組んでいます。

運輸安全に関する計画			
運行記録計（解析指導）	毎月	無事故無違反強調月間	年 4 回
安全推進会議（各部署）	毎月	無事故表彰	年 4 回
グループ会議	毎月	トラック運転技能大会	年 1 回
職長会	毎月	フォークリフト運転技能大会	年 1 回
事故研修会	発生翌月		
教育計画			
新入乗務職研修	都度	事故発生者研修	都度
安全講習会	都度	管理監督者研修	年 1 回

■ 無事故無違反強調月間

年間 4 回、無事故無違反強調月間を設けて、車両への車幕の取付け・事業所の出入り口への立て看板とのぼり旗の設置・社員は「安全宣言」バッジや腕章を着用し、全社一丸となり交通・製品・労災事故ゼロに向けた取り組みを実施しています。

また、KIT によるパトロールの実施、職制による添乗指導の実施、ドライブレコーダー違反に対する映像確認と指導の徹底、夕方・夜間の交差点立哨パトロールの実施など、様々な事故防止活動が計画・実施されています。

進発式



KIT によるパトロール実施



出発パトロール



■ 短期・長期無事故表彰

無事故表彰式



毎年、無事故を達成したグループ・社員に対して、短期・長期の無事故表彰を行っています。

短期無事故表彰は、3 ヶ月間無事故・無災害を達成した社員・グループに対し、長期無事故表彰は 3 年、10 年、20 年、30 年、38 年の間継続して無事故だった社員を表彰しています。

これにより、事故抑止目標の達成と社員の相互協力による安全意識の高揚を図っています。

■ カリツー協力会定期総会での表彰

カリツー協力会定期総会



毎年開催されるカリツー協力会定期総会では、安全・品質・業務への貢献に感謝し、当社から「優秀パートナー表彰」と「優秀ドライバー表彰」を行っています。

優秀パートナー表彰は、製品事故件数が少ない協力会社などの基準をもとに選出し、優秀ドライバー表彰は、当社業務に5年以上携わるドライバーのうち、各部から推薦された方を表彰しています。

■ カリツー協力会管理者研修会への参加

2025年7月11日、本社厚生棟にてカリツー協力会主催「トップ層研修会」に参加しました。

外部よりお招きした講師の方が「改正貨物自動車運送事業法等について」をテーマに講演され、当社および協力会社に法令順守の意識をさらに高める機会となりました。

■ カリツー・セーフティ・ラリーの開催

2025年7月～12月にかけて愛知県トラック協会主催の「トラック・セーフティ・ラリー（※1）」と連動した「カリツー・セーフティ・ラリー」を実施しました。

社員は5名1組のチームで参加し、期間中の無事故・無違反を共通目標として取り組みました。

結果、チーム達成率は90.47%となり、4年連続で90%超を達成しました。

これは当社の安全文化の定着と継続的な取り組みの表れです。

今後も安全教育や運転行動の改善を進め、地域社会の安心・安全に貢献していきます。

項目	2025 年度
全チーム数	618 チーム
達成チーム数	556 チーム
達成率	90.00%



■ 正しい運転・明るい輸送運動への参加

交通・労働災害事故の防止、年末年始の輸送繁忙期における安全・安心な輸送サービス提供などを目的として、2025年11月から2026年1月にかけて、全日本トラック協会と各県のトラック協会共催の「正しい運転・明るい輸送運動」に参加しました。

各事業所において、「携帯・スマートフォンの使用禁止の徹底」、「追突事故及び交差点における事故防止の徹底」、「確実な点呼の実施」など、重点実施事項を定めて運動に取り組みました。

※1 一定期間内の無事故・無違反を競い合うことによって、ドライバー、社員の交通安全意識を高め、チーム、事業所、支部内での事故、違反数の減少を図るとともに、愛知県内の交通事故死者数減少を目指す

■ 全社員のアルコール検知の実施

物流企業の社員として、勤務の内外を問わず飲酒による事故や検挙者を絶対に発生させないよう、乗務職のみならず全社員が出退勤時にアルコール検知を実施しています。

本社を含む全事業所にアルコール検知器を配備し、遠隔地で乗務を開始・終了する場合には、携帯型のアルコール検知器を使用して記録しています。

■ サイドバンパーの導入

サイドバンパー



大型トラックの全車両助手席側の 1 軸と 2 軸の間に、サイドバンパーの装着をしています。

車体横に取付けることにより、歩行者や自転車の進入を防止します。当社と整備会社が共同で開発した特別仕様で、全ての対象車に取り付けています。

サイドバンパーによる進入予防措置とともに、道路交通法の順守を徹底するよう、教育を行っています。

■ 電子点呼システムの活用

遠隔点呼



日々の点呼において、自社で構築した電子点呼システムを活用しています。

事故やトラブルの展開や再発防止に向けた注意事項を、パソコンを使用した点呼時に各乗務職に確認させるなど、運行における法順守の徹底と乗務職の注意意識向上に向けて取組んでいます。

また「カリッソーとカリッソー北海道」と「カリッソーとカリッソー九州」間で遠隔点呼を導入し、夜間や土日の人手不足などの点呼業務の負担軽減につながりました。

■ 速度計の導入

速度計の導入



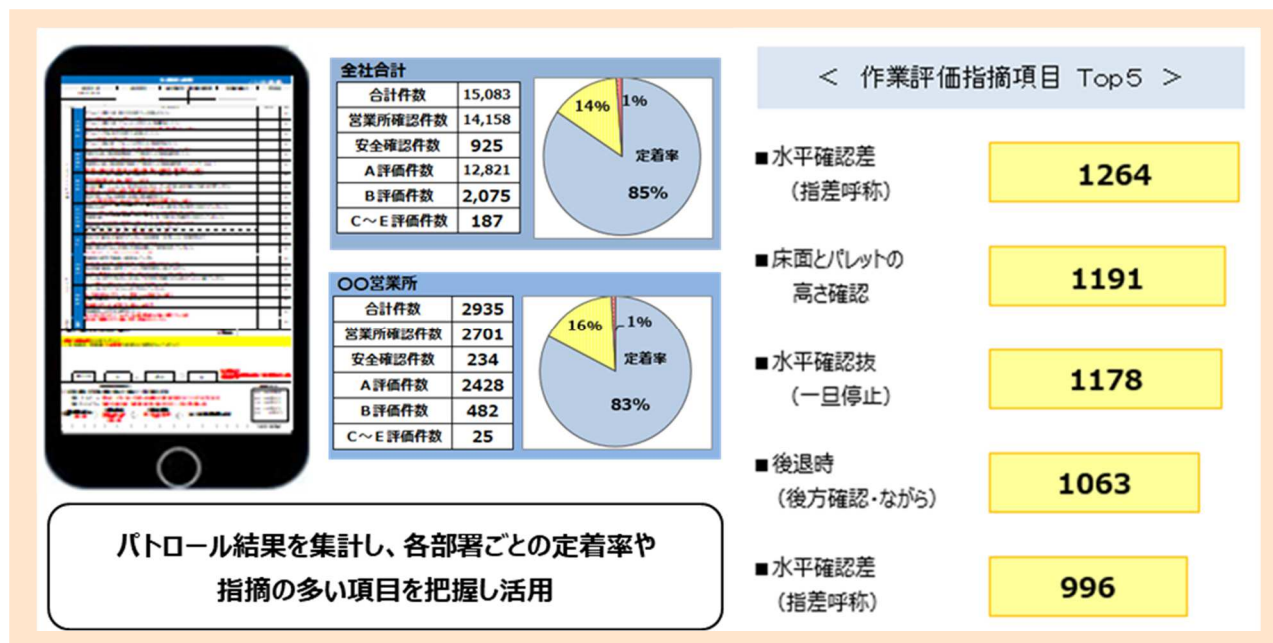
危険回避・安全確認に必要な速度を体感し、速度感覚を学ぶこと、体感速度が遅いことによる事故リスクの高いドライバーを洗い出し、矯正することを目的とし、速度計を導入しています。

また、高速走行による危険認知・判断・回避の遅れを体感する研修を実施しています。

■ IT を駆使したパトロールへの取り組み

2021 年 2 月より、KIT（カリツーIT パトロールシステム）を導入し、現在ではグループ会社にも拡大しました。また、2024 年 1 月、「物流作業評価支援システム」という名称で、特許を取得しました。

現場作業の安全品質向上のため、IT 端末を活用した現場巡視を行い、指差呼称や一旦停止などの実施状況について評価結果を社内で共有し、事故抑止につなげています。



■ ながらスマホ防止アプリの導入

従来より、乗務中のながらスマホを防止するため、運転中は携帯電話を指定の袋に入れていました。

さらに安全を強化するため、カリツーオリジナルアプリを開発・導入し、既存ルールに違反した場合、それを検知し管理者へ即時通達する仕組みを構築、個人スマホ防止アプリの導入には乗務職の合意を得て実施しています。



■ 教育 DVD の展開

社員への教育材料として、SD 情報「セーフティ・ドライブ (安全運転) 情報」と、社内広報として「カリツーだより」を自社内スタジオで編集、展開しています。また、会社行事に上映するウエルカムビデオの作成、社史資料の映像記録、営業所からのリクエストビデオの作成も行っています。

■ 競技会への出場

専門知識の習得、運転技能及び点検技術の研鑽、交通安全に関する意識の向上を図ることを目的として、競技会へ積極的に参加しています。

開催日	競技会名	人数	入賞者（★全国大会に出場）	
6/14	第 25 回愛知県トラック協会 西三支部刈谷部会 自動車運転技能競技会	6 名	中型部門 2 位:	刈谷物流センター 戸田選手
			中型部門 4 位:	刈谷北営業所 木村選手
			大型部門優勝:	刈谷北営業所 瀬川選手
			大型部門 4 位:	岡崎営業所 大河原選手
			大型部門 6 位:	刈谷北営業所 関選手
6/21	第 46 回愛知県フォークリフト 運転競技大会	5 名	カウンター2 位:	西尾東物流センター 加藤(壮)選手★
			カウンター3 位:	東刈谷営業所 福岡選手
			カウンター4 位:	刈谷北営業所 西川選手
			リーチ優勝:	豊田西物流センター 名取選手
			リーチ 2 位:	豊田西物流センター 佐宗選手
6/21	第 43 回福島県フォークリフト 運転競技大会	2 名	優勝:	カリツ-東日本郡山(営) 佐藤(海)選手★
			3 位:	カリツ-東日本郡山(営) 佐藤(升)選手
7/12	第 48 回福島県 トラックドライバーコンテスト	1 名	11 トン部門優勝:	カリツ-東日本郡山(営) 七海選手★
8/30	第 57 回愛知県トラック協会 トラックドライバーコンテスト	6 名	中型部門 2 位:	安城南営業所 村越選手
			大型部門 3 位:	安全品質管理課 松井選手
			女性部門優勝:	刈谷北営業所 鈴木選手★
9/27・ 28	第 40 回全国フォークリフト 運転競技大会	2 名	—	—
10/25 ・26	第 57 回全国トラック ドライバー・コンテスト	2 名	—	—
11/8	カリツ-・カリツ-協力会共催 ドラコン・フォークリフト合同大会	65 名	—	—
12/6	第 14 回愛ト協 省エネ走行競技会	1 名	—	—

ドラコン・フォークリフト合同大会



フォークリフト運転競技大会



トラックドライバーコンテスト



■ 職場環境の整備

社員が安全に働ける職場環境の整備へ向け、各事業所に安全衛生委員会を設置し、定期的に職場を巡視しています。

中央安全衛生推進委員会では、各職場での安全衛生に対する意見を取り上げ、労働災害防止対策の改善を行っています。また、災害発生時には、対策改善提案・対策のフォロー、対策の全社展開と類似事故撲滅に向けた活動を行っています。

□ 労働災害の分析・水平展開

労働災害防止のため、発生した労働災害については、要因分析と発生原因の特定を行い、再発防止対策、是正処置を実施しています。

また、一連の労働災害情報をデータベースとして蓄積するとともに、水平展開をするなど社内でも共有しています。

倉庫内の空調設備



□ 倉庫内に空調設備を導入

熱中症対策の一環として、営業所にエアコンなどの空調設備の導入を推進しています。

職場環境を改善することで、社員の健康維持とモチベーション向上に繋がりました。

フォークリフト用ミストファン



□ フォークリフト用ミストファンの導入

熱中症対策の一環として、豊田西物流センターではフォークリフト用ミストファンを導入しています。

フォークリフトに小型のミストファンを取り付けることで、気化熱効果により、体の表面温度を下げて熱中症を予防しています。

熱中症応急処置セット



□ 熱中症応急処置セットを配置

熱中症対策の一環として、本社と営業所に熱中症応急セットを配置しました。

セットには飲料水、経口補水タブレット、冷却パック、冷感ポンチョが入っており、迅速な応急対応が可能となりました。

熱中症対策用品展示会



□ 熱中症対策用品展示会の開催

2025 年 4 月に熱中症対策用品の展示会が開催され、8 社の出展企業から熱中症対策用品が紹介されました。

各種暑さ対策グッズの活用を通じ、安全かつ快適な作業環境を整えていきます。

フォークリフト用アーチライト



□フォークリフト用アーチライトの導入

労災事故防止のため、フォークリフトの後退時に後方のランプが点灯し、地面を照らす LED 照明の導入を進めています。
暗い倉庫内や作業音の大きい環境でも、フォークリフトの接近を周囲に知らせ、衝突事故の防止に役立ちます。

フォークリフトの足元照明



□フォークリフトの足元照明の導入

労災事故防止のため、暗い場所で見にくいフォークリフトの足元を照らす LED 照明を取り付けました。
降車時の足元を明るく照らし、転倒防止に役立っています。

安全掲示板



□安全掲示板の設置

各拠点に安全掲示板を設置しています。
無災害継続日数を「見える化」することで、社員への事故防止に対する意識付けを行っています。

□疲労軽減マットの導入

作業時の立ち仕事の疲労軽減のために、疲労軽減マット導入しています。足腰の負担が減り、腰痛予防に役立っています。

□安心・安全な職場づくり

安全・品質向上の取組みの一環として、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

2023年3月より、一部のトラックへ荷台への昇降時の転落防止のため、手すり足掛けを開発し取付けています。昇降時の安全対策と、足腰への負担軽減になりました。

また、西尾東物流センターではAGV（無人搬送車）とハンディーハンド（グローブ式パワーアシスト荷役物運搬機）を導入しており、運搬作業時の負担軽減になりました。

AGV は高棚デバイスセンターにも導入しています。

東端物流センターでは倉庫にプロジェクションピッキングを導入しています。

ピッキングデータに基づき指定ロケーションを照合することで、作業指示書の確認を不要とし、属人化の解消と新人教育に係る工数を減らせることができました。

高棚デバイスセンター AGV



西尾東物流センター ハンディーハンド



東端物流センター プロジェクションピッキング



二つ星認証マーク



□働きやすい職場認証制度への参加

国土交通省・厚生労働省が進めている、働きやすい職場認証制度の二つ星認証を取得しています。

この制度は、自動車運送事業者の運転者の労働条件や労働環境を第三者機関が評価・認証する制度です。法令遵守のみならず、法令を上回る労働条件や労働環境改善に向けた取り組みを十分に実施し、今後も社員にとって働きやすい職場を作ります。

ホワイト物流推進運動



□ホワイト物流推進運動への参加

国が推進する「ホワイト物流推進運動」に賛同し、自主行動宣言を提出しています。

取引先やパートナーと協力し、物流の効率化・生産性向上を図るとともに、女性や高齢者など誰もが働きやすいホワイトな労働環境の実現を目指しています。

■運輸安全目標と結果

項目	2025 年度目標	2025 年度結果	2026 年度目標
重大事故 (※1)	0 件	0 件	0 件
輸送の安全に関する投資額	326 百万円	314 百万円	310 百万円

■交通事故抑止目標と結果

項目	2025 年度目標	2025 年度結果	2026 年度目標
自責交通事故 (※2)	2 件以下	14 件	5 件以下

■製品事故等抑止目標と結果

項目	2025 年度目標	2025 年度結果	2026 年度目標
製品事故	41 件以下	58 件	41 件以下

■労働災害抑止目標と結果

項目	2025 年度目標	2025 年度結果	2026 年度目標
重大労働災害 (※3)	0 件	0 件	0 件
重大労働災害以外 (※4)	0 件以下	7 件	2 件以下

※1 国土交通省自動車事故報告規則に定める事故 ①転覆・転落・火災・踏切・死傷 ②危険物の飛散漏洩 ③健康障がい ④車両故障等

※2 過失割合 30%超の交通事故

※3 死亡災害・後遺障害・休業 6 ヶ月以上

※4 休業 4 日以上 6 ヶ月未満

3. 環境

(1) カーボンニュートラル推進組織

カーボンニュートラルの専門部署を設立しています。

持続可能な社会に向けて、CO₂ 排出量の削減を目標にカーボンニュートラルを推進します。

カーボンニュートラル方針



(2) 燃費向上に向けた取組み

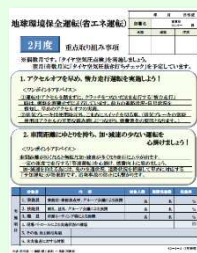
■ 燃費向上目標と結果

項目	2025 年度目標	2025 年度結果目標比	2026 年度目標
全社・全車格平均燃費	0.13%向上	99.03%	0.3%向上

■ 省エネ運転の実践

省エネ運転は、燃料の節約やCO₂の排出抑制だけでなく、穏やかなやさしい運転を実践することにより、安全運転の向上にもつながります。

地球環境保全運転



□ 地球環境保全運転の展開

地球環境保全運転（省エネ運転）に関する基礎的知識の周知を徹底するため、毎月重点取組事項を決定して、各部署に展開しています。

■ 各部署の燃費管理責任者による活動

各部署の燃費向上活動の中心として、燃費管理責任者（全26名）を選び、自部署の燃費管理、燃費向上の取組みなど乗務職への教育・指導を行い目標達成に向け取組んでいます。

■ 高速型ディファレンシャルギアの装着（※1）

長距離用トラックの一部車型に高速型ディファレンシャルギアの装着をしています。
ギアによりエンジン回転数が下がり、燃料消費量を抑え燃費向上を図っています。

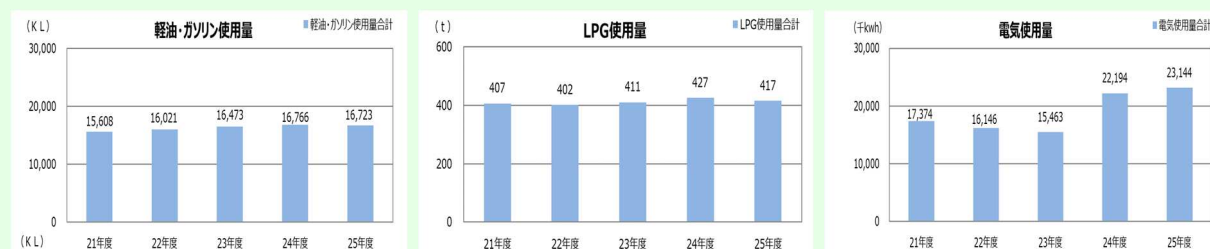
※1 高速走行時のエンジン回転数を下げて走行できる機器

(3) エネルギー使用量とCO₂排出量 (※1)

■エネルギー使用量

エネルギー源	単位	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
軽油	KL	15,376	15,784	16,243	16,528	16,499
ガソリン	KL	232	237	230	238	224
LPG (※2)	t	407	402	411	427	417
都市ガス	千m ³	123	108	136	0.9	0.9
電気	千 kwh	17,374	16,146	15,463	22,194	23,144

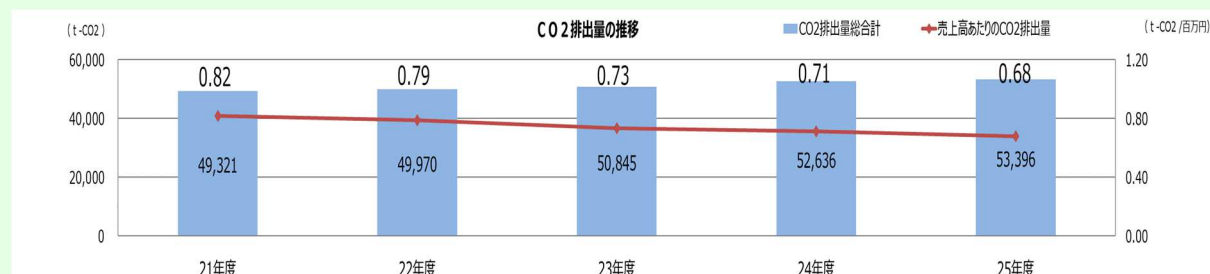
エネルギー使用量の推移



■CO₂排出量 (t-CO₂)

エネルギー源	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
軽油	39,747	40,801	41,987	43,305	43,228
ガソリン	539	551	534	553	519
LPG	1,221	1,206	1,233	1,276	1,246
都市ガス	276	242	305	10	10
電気	7,538	7,170	6,786	7,492	8,392
合計	49,321	49,970	50,845	52,636	53,396

CO₂排出量の推移



※1 カリツ子会社 3 社の数値を含む

※2 LPG は 2021 年度よりカリツ子会社 3 社の数値を含む

(4) エネルギー使用量・CO₂ 排出量削減に向けた取組み

■モーダルシフトの推進

環境負荷低減のため、トラックを使用した貨物輸送を、環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換するモーダルシフトを推進しています。

□JR コンテナ輸送

環境に優しい効率的な長距離輸送を実施しています。

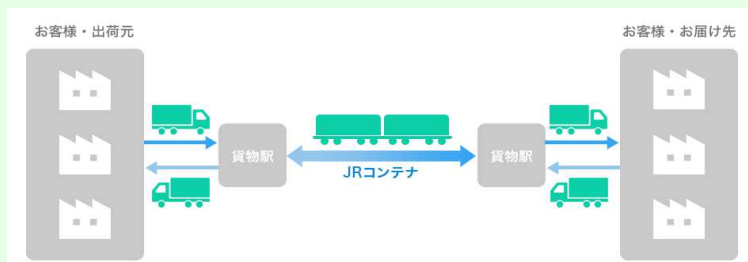
輸送には主に 12ft コンテナを使用し、集荷・配達を行っています。

出荷元の最寄り駅までコンテナを積載したトラックで集荷し、駅から駅までは列車で輸送します。

お届け先の最寄り駅からはコンテナを積載したトラックで配達しますが、中継地で車両を載せ替え、集配先の乗り入れ条件に合わせた車種での対応も可能です。

鉄道輸送は 10 t トラック 65 台分を 1 名の運転手にて運搬が可能のため、今後懸念されているドライバー不足や環境に配慮した輸送モードになります。

JR コンテナ輸送



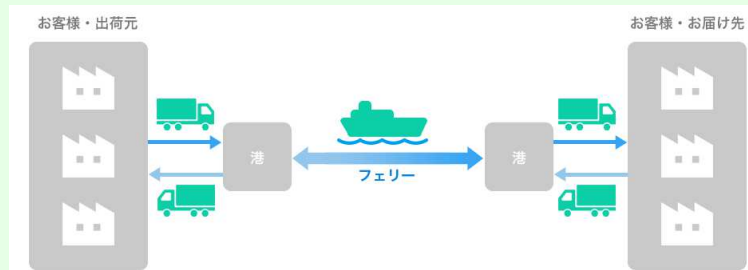
□フェリー輸送

陸海一貫輸送システムの長距離輸送を実施しています。

長距離輸送の際は、トレーラーシャーシだけをフェリーに搭載させ無人で航走します。

到着地点で別のトラックが荷受けするという陸海一貫輸送システムを構築し、長距離輸送の効率化と、CO₂ 削減に貢献する環境に優しい輸送を実現します。

フェリー輸送



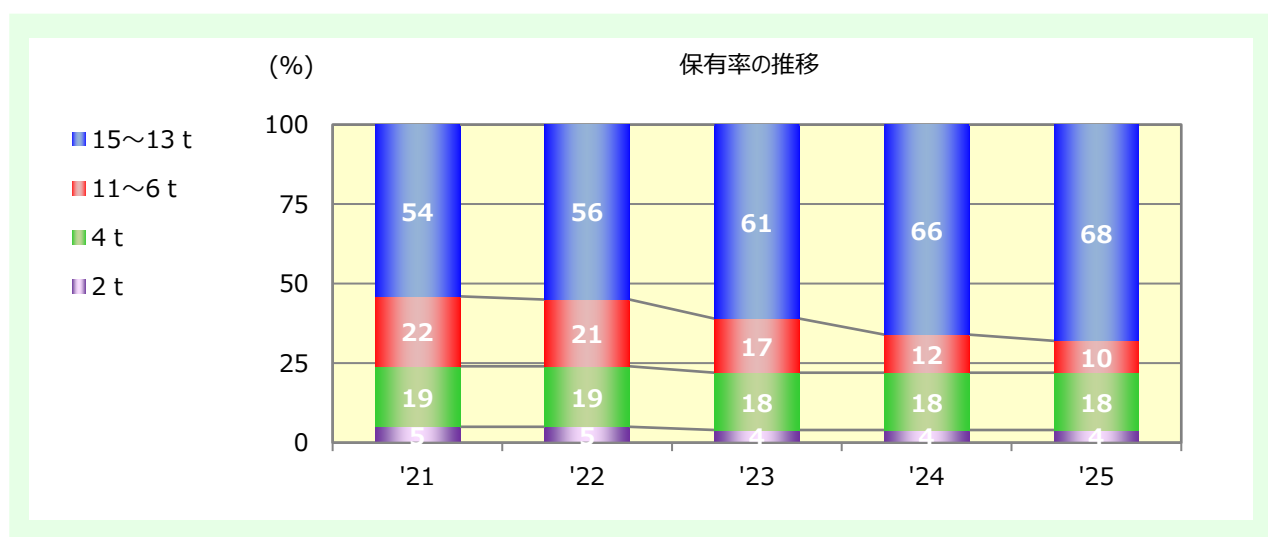
■ 低公害車の導入

環境負荷の低減を目的に、低公害車の導入を進め、保有率の向上に取り組んでいます。

項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
低公害車の台数 (※1)	1,030 台	1,056 台	1,099 台	1,107 台	1,109 台
低公害車以外の台数 (※2)	31 台	28 台	28 台	34 台	39 台
低公害車の保有率	97.1%	97.4%	97.5%	97.0%	96.6%

■ グリーン物流の推進

輸送能力の高い大型車両を積極的に導入し、混載輸送を促進することで、輸送回数の削減と輸送効率の向上に努めています。



21m フルトレーラー



□ 21m フルトレーラーの導入

21m フルトレーラーの導入により物流効率の向上と環境負荷の低減を推進しています。

輸送回数の削減を通じて、CO₂排出量や燃料使用量の低減を実現し、持続可能な物流体制の構築に取り組んでいます。

今後も、安全性と効率性を重視した環境配慮型物流を通じて、社会とお客様の期待に応えていきます。

※1 低公害車は営業車両のみ対象

大気汚染物質（窒素酸化物や一酸化炭素、二酸化炭素など）の排出が少なく、環境への負荷が少ない自動車
愛知県の「県民の生活環境の保全等に関する条例」に定める低公害車の定義を採用

※2 低公害車以外の車は自家用・軽・バス・一部の 2t 車

環境負荷低減に向けた取り組みの一環として、グリーン購入およびグリーン調達を推進しています。

製品・サービスの選定にあたっては、省エネルギー性やリサイクル素材の活用状況、環境ラベル認証の有無など、環境への配慮を重視しています。

今後も、調達活動を通じてサプライチェーン全体での環境配慮を進め、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

クールハイブリッドトラック



□ クールハイブリッドトラック（15 t）の導入

電動駆動式の冷凍機を搭載したクールハイブリッドトラック（15 t）を導入しています。

ハイブリッドトラックの活用により、燃費性能の向上と CO₂排出量の削減を図っています。

□ 燃料電池車両の導入検討

脱炭素社会の実現に向けた取り組みの一環として、燃料電池車両の導入を検討しています。

物流部門における温室効果ガス排出量の削減や、エネルギー利用の高効率化が期待されることから、将来的な実用化を見据えた検証を進めています。

現在は、走行距離や積載能力、燃料供給インフラなどの実運用条件を総合的に評価し、導入可否について多角的な検討を行っています。

あわせて、国や自治体の支援制度、水素関連技術の動向にも注視しながら、持続可能な輸送システムの構築に向けた検討を継続していきます。

b Z 4 X



□ 燃料電池自動車の導入

車に搭載した燃料電池からつくられる電気を使い、モーターを回して走行する車で FCV と呼ばれています。

本社の M I R A I を導入しています。

□ プラグインハイブリッド車の導入

ガソリンエンジンとモーターの両方を搭載し、外部からの充電も可能なハイブリッド車です。

本社内に充電設備を設置しプリウス P H V を導入しています。

フォロフライ



□ 電気自動車の導入

充電した電気でもーターを動かして走る車です。

本社では長距離走行する社内便の運行にフォロフライを使用しています。他には i - M i E V、リーフ、b Z 4 X を導入しています。

また、本社と一部の事業所に V 2 H（充放電器）を設置しており、停電時に電気自動車へ貯めた電気を建物で使用できます。

再生タイヤ（リトレッドタイヤ）



□再生タイヤ（リトレッドタイヤ）の導入

走行により摩耗したタイヤの溝の部分トレッドゴム（路面と接する部分）を新しいゴムに交換し再利用するリトレッドタイヤを使用しています。

使用後のタイヤを再利用することで、資源の有効利用によるCO₂排出量の削減が期待できます。

また、低床4軸車の後輪に、再生回数が2回目のリトレッドタイヤを装着できるようタイヤメーカーと共に取組んでいます。

リチウムイオンバッテリー



□リチウムイオンバッテリーの導入

フォークリフト用リチウムイオンバッテリーの導入により、作業効率と環境性能の向上を進めています。

急速充電や長寿命化に加え、作業負担の軽減やCO₂排出量の削減を実現し、現場運営の効率化と環境配慮を両立しています。

今後も、持続可能で効率的な現場づくりに取り組んでいきます。

□リフトバッテリーの再利用

性能が低下したバッテリーのセルの入れ替え修理を実施し再利用しています。

再利用することで、資源の有効利用によるCO₂排出量の削減効果につながっています。

□省燃費ディーゼルエンジンオイルの活用

省燃費ディーゼルエンジンオイルを活用しています。

燃費向上効果が高く、オイル寿命が長いので、コストとCO₂排出量の削減効果につながっています。

□省エネルギー型照明への転換

事業所・倉庫施設において、LED照明を中心とした省エネルギー化を推進しています。

電力消費の削減に加え、長寿命化によるメンテナンス負担の軽減を実現し、環境と効率の両立を図っています。

太陽光発電



□太陽光発電の設置

再生可能エネルギーの普及および供給量拡大への貢献を目的として、太陽光発電設備を導入しています。

今後は、さらなる環境負荷低減と電力コスト削減を図るため、発電した電力を自社施設で活用する「自己消費型」への切り替えを進める計画です。

あわせて、将来的には蓄電池や高効率設備との組み合わせにより、電力利用の安定化とエネルギーマネジメントの高度化に向けた取り組みを推進していきます。

CO₂フリー電気の導入

地球にやさしく、未来をあかるく。

□CO₂フリー電気の導入

CO₂フリー電気の導入により、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の削減を進めています。

再生可能エネルギーの活用を通じて、事業所・倉庫施設における電力使用の環境負荷低減に取り組んでいます。

廃ペットボトル舗装



□廃ペットボトル舗装

2026 年 4 月、豊橋東物流センターにおいて、廃ペットボトルを再利用した舗装を導入しました。

使用済みペットボトルのリサイクルを通じて、資源循環の促進やCO₂排出量の削減に貢献しています。

また、舗装材としての耐久性向上により、長期的な維持管理負担の軽減も図っており、環境配慮と運用効率の両立を実現しています。

(5) その他の環境保全活動

■油脂漏れ緊急対応訓練

油脂漏れ緊急対応訓練



トラックからの油脂（燃料・オイル等）の漏れを未然に防ぐため、乗務職が毎日行う日常点検にて確認を徹底しています。

万一発生した場合に、適切かつ迅速に対応できるよう、あらかじめ手順を決め、毎年油脂漏れ緊急対応訓練を実施しています。

全車両に、油脂漏れ対応のための備品を常備しています。

■廃棄物に係わる取組み

日々の事業活動で排出される廃棄物の処理については、分別を徹底し、再生可能なものはリサイクルを進め、排出量の削減に取り組んでいます。

□「リサイクル部品」の活用

再利用可能な三角停止版、点検ハンマー、懐中電灯、廃リフトバッテリーの一部などを回収し「リサイクル部品」として社内で活用しています。

ストレッチフィルム



□産業廃棄物の排出量削減

2023 年度から 2024 年度にかけて約 46%の排出量削減に成功しました。

引き続き排出量を削減できるよう取組みを継続していきます。

□ストレッチフィルムの再製品化

荷受品の固縛のために使用したラップ（ストレッチフィルム）を回収後、粉碎・洗浄し、再生原料としてペレット（粒状）化し、再度製品化する取組みを行っています。

(6) 環境会計 (※1)

環境会計を導入し、環境保全コスト（投資・費用）を管理することで、効果的な環境配慮の取組みを推進しています。(※2)

■ 環境保全コスト (※3)

(千円)				
コストの分類		主な取組みの内容	投資額 (※4)	費用額 (※5)
事業 エリア内	公害防止	低公害車（トラック）、 浄化槽の維持管理費等	42,205	762,020
	地球環境保全	バッテリーリフト、 エコタイヤ等	178,547	283,823
	資源循環	廃棄物処理費用、 高性能オイル等	－	59,086
上・下流		排水補償金等	－	213
管理活動		ISO 審査、CSR レポート 発行等	－	41,103
研究開発		物流改善スタッフ費用等	－	146,696
社会活動		業界団体会費、募金等	－	4,642
環境損傷対応		土壌汚染の修復費用等	－	－
合計			220,752	1,297,586

■ 環境保全効果

環境パフォーマンス指標（単位）	2024 年度
産業廃棄物排出量（t）	1,983
水使用量（m ³ ）	41,795

※1 事業活動における環境保全コストとその効果を明確にし、可能な限り定量的に測定・伝達するしくみ

※2 データは 2024 年度現在。2025 年度は集計中

※3 環境負荷の発生防止、抑制または回避、影響の除去、発生した被害のまたはこれらに資する取組みのための投資額及び費用額
データはカリター分のみ

※4 対象期間における環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていくもの
（減価償却資産の当期取得額）

※5 環境保全を目的とした財・サービスの費消によって発生する費用または損失

4. 社会

(1) 社会との係わり

■ 自治体との連携

豊田市との災害協定調印式



□ 災害協定の締結

2025 年 8 月、新たに豊田市との間で「災害時における一時避難の受入れ及び物資の輸送等に関する協定」を締結しました。

災害発生時には、当社の資源や設備、人的支援を活用し、速やかに地域の復旧支援や避難所運営等の活動に協力します。

当社は安城市と西尾市との間で災害協定を締結しています。

今後は他の自治体とも締結し、地域住民の皆さまが安心して暮らせるまちづくりに貢献できるよう、一層努めます。

豊田市災害物流訓練



□ 災害物流訓練への参加

2025 年 12 月、愛知県豊田市が実施した災害時の物資輸送拠点となる豊田スタジアムにおいて、大規模地震を想定した物流訓練に参加しました。当社含め 13 企業と豊田市職員、愛知県職員が参加し、物資輸送拠点への緊急物資の搬入、仕分け、避難拠点への配送を想定した訓練が実施されました。

また、2026 年 2 月、愛知県と西尾市が主催する「災害物流実動訓練」に参加し、実際に物資を使用して災害発生時の手順を確認しました。今後も地域の災害訓練活動に積極的に協力し、地域社会に貢献していきます。

□ 緊急時における軽油供給対応

全日本トラック協会に対して、震災等の災害発生時、優先的な軽油供給の要請があった場合、速やかに対応することを誓約しており、運送事業者としての役割を全うしていきます（対象は一部の施設）。

■ 交通安全立ち番

各事業所では、交通安全活動の推進に向け独自に、または地域や同業他社と連携して、定期的に交通安全の立ち番や交通安全パトロールを行っています。

運送事業者として積極的に交通安全の重要性を伝えていきます。

■ 地域未来牽引企業（※1）

経済産業省より、地域牽引企業の担い手、及び担い手の候補となる地域の中核企業として、地域未来牽引企業に選定されております。地域を代表して牽引していけるよう、経済産業省の支援も参考に精進していきます。

※1 地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより地域の経済成長を力強く牽引する事業を更に積極的に展開すること、または、今後取組むことが期待される企業

■ 職場体験の受入

職場体験



毎年、電子デバイスセンターなど一部の事業所において、中学生を対象とした「職場体験」に協力し、地域貢献に務めています。
倉庫内の在庫管理・入庫作業や検品作業などの体験を通して、物流業への理解を深めて頂きました。

■ 企業訪問の受入れ

企業訪問



2024 年度に引き続き、2025 年 9 月、広島西条営業所にて、東西条小学校の 3 年生（1 クラス）による企業訪問を受入れました。
当日は、業務内容について説明を行うだけでなく、小学生からも数多くご質問をいただき、当社のみならず物流業界や東広島地区に関心を持ってくださっていることが分かりました。

■ イベントの開催

フォークリフトの実演



□ 郡山営業所にて交通安全イベントを開催

2024 年度に引き続き、2025 年 5 月、カリッー東日本郡山営業所にて、地元の幼児発達支援事業所様を招いて、イベントを開催しました。

当日は、子ども達に実際にトラック・フォークリフト・トラック荷台への乗車、トラックやフォークリフトの実演を見学頂き、車両の構造について体験して頂きました。

今後も積極的な受入れを行いたいと考えています。

トラック乗車体験



□ 苫小牧市にて交通安全イベントを開催

2025 年 9 月、カリッー北海道は苫小牧市の nepia アイスアリーナ駐車場にて交通安全イベントを開催しました。

当日は、子ども達に実際にトラックの運転席に乗車して貰い、ドライバーの視点から車両の死角について体験して頂きました。

また、苫小牧市イメージキャラクターの「とまちょっぴ」もイベントに参加して頂き、一緒に交通安全活動を行いました。

交通安全教室への協力

交通安全教室



地域社会への貢献活動の一環として、児童を対象とした交通安全教室に積極的に協力しています。

2025 年 10 月、安城市のアンフォーレで開催された NPO 法人安城まちの学校主催の交通安全教室に、当社のトラックを提供しました。

当日は、トラックの内輪差による巻き込み事故の危険性や、運転席からの死角について、乗車体験を通じて子供たちに説明しました。

また、トラック協会主催の交通安全教室においても、同様に車両提供と説明を行い、安全意識を深める場として活用いただいています。

今後も交通死亡事故撲滅に向けた取組みを推進していきます。

年末の交通安全県民運動の出発式

年末の交通安全県民運動の出発式



2025 年 12 月、西尾営業所にて「年末の交通安全県民運動」出発式が行われました。

西尾警察署長のご挨拶後、交差点での確実な一旦停止を促し、事故未然防止を目指す「ぴたっ一旦停止マグネット」をトラックに貼付して出発しました。

交通事故が多発する 12 月において、交通安全活動を通じて全社でドライバーの安全意識向上を図り、交通事故撲滅に取り組めます。

SDGs 等の取組み

パープルリボン活動への参画



□パープルリボン活動への参画

カリツ-九州大分中津営業所では、2020 年より「パープルリボン活動」に取り組んでいます。

2025 年も 11 月 12 日から 25 日の期間、社内にてさまざまな啓発活動を展開しました。

これからも、「女性に対する暴力をなくす運動」を通じて、DV や虐待のない社会の実現を目指し、活動を継続していきます。

あんじょう SDGs 共創パートナー制度



□あんじょう SDGs 共創パートナー制度

安城市の「あんじょう SDGs 共創パートナー制度」に登録しています。

「あんじょう SDGs 共創パートナー制度」は、SDGs に取り組む企業・団体等の裾野を広げ、持続なまちづくりに取り組むと共に、企業・団体等の連携を促進する制度です。

今後も安城市と連帯して、SDGs の取組みを推進していきます。

□ SDGs 取組みの一例

SDGs の取組みに賛同し、様々な活動を行っています。下記はその一例です。

項目
日本赤十字社寄付機能付自動販売機の設置
ホンデリングプロジェクト
ベルマーク/書き損じハガキの回収/使用済みトナーカートリッジの回収
【環境省】Fun To Share "COOL CHOICE" の賛同
節水エコバルブ設置

■ 寄付活動

地域に根差した物流会社として、自治体や関連団体への寄付などの社会貢献活動を推進しています。
今後もより良い社会づくりに貢献できるよう、活動を継続していきます。

児童養護施設への寄贈



□ 児童養護施設への寄贈

2025 年 12 月、安城市の社会福祉法人聖清会児童養護施設「なかよしこよし」と、碧南市の社会福祉法人長寿会児童養護施設「オリーブ」に、ギフトカードとお菓子詰め合わせをクリスマスプレゼントとして寄贈しました。

当社のグループ企業である「光徳運輸株式会社」、「カリツーオートテクノ株式会社」、「日豊高速運輸株式会社」の 3 社にも協賛いただきました。

安城社会福祉協議会への寄付



□ 安城社会福祉協議会への寄付

2025 年 5 月、社会貢献活動の一環として、社会福祉法人 安城社会福祉協議会様へマスク・アルコール消毒液・文房具などの物資を寄付しました。

関連団体様へ物資を届けていただくことで、様々な地域社会の課題解決への一助として頂ければと思います。

子ども食堂への寄付



□ 子ども食堂への寄付

2022 年より、カリツー東日本岩手金ケ崎物流センターでは、子ども食堂へおこめ券や花火セット等の寄付を継続して行っています。

2025 年 12 月には、金ケ崎町の子ども食堂「はっぴいづれいすかねがさき」が開催したクリスマスパーティーへお菓子の詰め合わせを寄付し、2026 年 3 月には、金ケ崎町社会福祉協議会が運営する子ども食堂事業への寄付を行いました。

この取組みは胆江日日新聞にも取り上げられ紹介して頂きました。

□ 企業版ふるさと納税への寄付

2025 年度に、岩手県金ケ崎町と北海道苫小牧市へ「企業版ふるさと納税」の寄付活動を実施しました。2026 年 4 月、金ケ崎町役場と苫小牧市役所にて寄付に対する感謝状を拝受しました。寄付金は、金ケ崎町が進める子育て支援、企業誘致拡大や、苫小牧市の環境負荷の低減、人の流れの創出などに役立てられる予定です。

金ケ崎町より感謝状を拝受



苫小牧市より感謝状を拝受



□ 植樹活動や農業支援への寄付

毎年環境保全活動の一環として、公益財団法人オイスカに寄付を行っています。オイスカは、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開し、各国の青年の人材育成に力を入れている国際 NGO です。今後も寄付を通して、植林活動や農業支援に協力していきます。

□ 協賛・賛助会員・寄付

社会貢献などの事業に賛同し、協賛を行っています。下記はその一例です。

分野	団体名等
教育支援	朝日小学生新聞（朝日写真ニュース社）
社会福祉	特定非営利活動法人安城まちの学校、NPO 法人パンドラの会
	更生保護法人愛知県更生保護協会
	特定非営利活動法人アジア車いす交流センター
	公益社団法人被害者サポートセンターあいち
	セカンドハーベスト名古屋
国際交流	公益財団法人オイスカ
人道支援	日本赤十字社 令和 6 年能登半島地震義援金
芸術	名古屋フィルハーモニー交響楽団、安城市交響楽団
スポーツ	名古屋グランパス後援会事務局、三河ベイフットボールクラブ株式会社、シーホース三河、クインシーズ刈谷、デンソーアイリス、デンソーエアービーズ、ジェイテクト STINGS 愛知
伝統文化	安城七夕まつり協賛会・装飾協賛、安城三河万歳後援会

■ 社外からの表彰等

2025 年度における、社外からの表彰実績等の一部は下記の通りです。

賞機関名	表彰名	受賞者数
警察庁	優良運転者表彰	1 名
中部運輸局愛知運輸支局	優良運行管理者表彰	1 名
愛知県高速道路交通安全協議会	優良運行管理者表彰	1 名
一般社団法人愛知県トラック協会 西三支部 刈谷部会	優良運転者表彰 30 年	1 名
	優良運転者表彰 20 年	1 名
	優良運転者表彰 10 年	2 名
刈谷自家用自動車組合	交通安全功労者表彰	1 名
	優良自家用自動車運転者表彰	4 名
合計		12 名

安城警察署より感謝状を拝受



□ 警察署より感謝状を拝受

2026 年 1 月、安城警察署より、交通安全への取組みが認められ感謝状を頂きました。地域の小学校での交通安全教室への参加や、全社員への安全教育や街中での立哨活動、交通安全に関するポスターの掲示などを積極的に行っています。今後は取組みを継続するだけでなく、新たな取組みを検討・導入していきます。また、西尾警察署と豊田警察署からも表彰状を頂いています。

(2) お客様との係わり

■ 海外事業の拡大

AEO 通関業者



□ 通関

貿易実務のエキスパートとして輸出入申告書の作成、税関検査立会い等、通関に関わる全ての業務を AEO 通関業者として正確かつ迅速に提供します。

□ 保税蔵置場

電子デバイスセンターB 棟の一面において、保税蔵置場の許可を取得しています。日本から外国に輸出する貨物、あるいは国内に輸入する貨物について、保管、取扱いのほか通関手続を行うことができます。

□ 海外ネットワーク

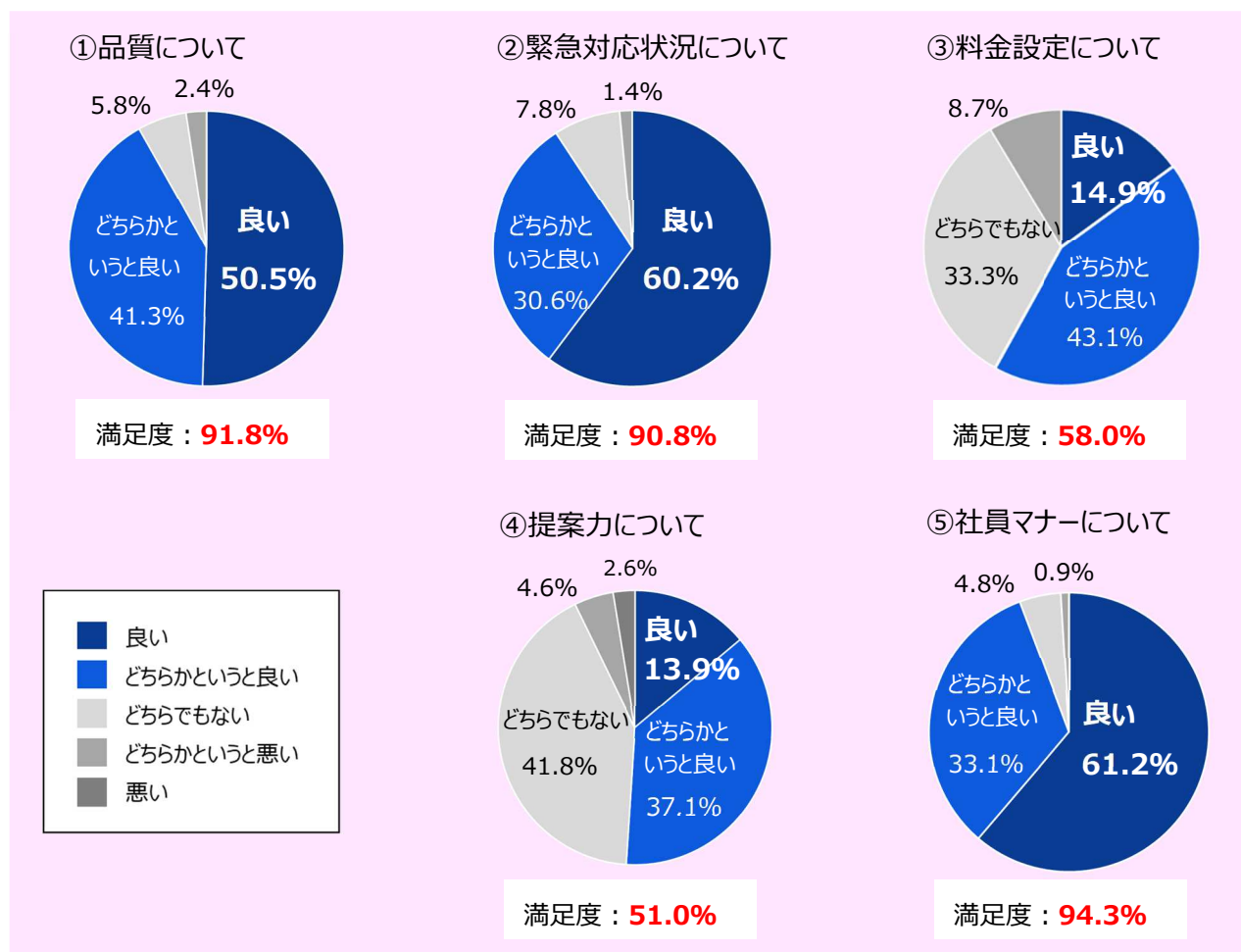
タイのチョンブリー県のタイ国内最大級の工業団地アマタシティ・チョンブリー内に、倉庫業を担う KLT（カリットロジスティクスタイランド）と輸送業を担う KTT（カリットトランスポートタイランド）があり、倉庫と輸送の複合サービスを提供しています。

■ C Sアンケート（お客様満足度）調査結果について

お客様へ提供する物流サービス向上を目的として、2年に1度C Sアンケートをお願いしており、2024年度には以下の回答を頂きました。

今後も定期的にC Sアンケートを行い、頂いた意見を業務活動に活かし、お客様満足度の向上に努めます。

□ アンケート結果



その他、「当社を選択して頂いた理由」「物流業界を取り巻く環境の変化の中で、当社に期待する事」を回答頂きました。

□ 主なご意見・要望

お客様に対するホスピタリティにいつも感心しており、見習いたい
イレギュラー対応では営業所に助けていただき、感謝している
更なる効率的な物流をご提案頂きたい
定期的に困り事の共有等、コミュニケーションが取れる場があると良い
今後のCO₂削減等、SDGsへの対応プランが欲しい

□ アンケートの結果を受けて

C Sアンケートの結果を真摯に受け止め、お客様からより一層信頼頂けるよう、社員一同尽力させていただきます。アンケートにご協力頂きました皆様には、改めて御礼申し上げます。

(3) 社員との係わり

■ 人材育成

入社式



□ 2026 年度新規学卒者入社式

2026 年 4 月 1 日に 2026 年度新規学卒者入社式を実施しました。

カリツー株式会社事務職 22 名、技能職 10 名と、カリツー九州株式会社事務職 3 名の合計 35 名が、新たにかりツーグループへ仲間入りしてくれました。

新たな仲間と共に、これからも成長と挑戦を続けていきます。

□ 教育・研修制度

社員の能力向上のため、各種教育・研修を体系的に実施しています。

教育・研修	内容
階層別研修（事務職）	昇格者研修、年次研修（2 年目・3 年目・4 年目）、中堅総合職研修、新入社員研修、メンタルヘルスなど
階層別研修（技能職・乗務職）	昇格者研修、年次研修（2 年目・4 年目）、新入社員研修、職長研修、メンタルヘルス、新昇格グループ長研修など
キャリア研修	キャリア振り返り、自己理解の実践など
目的別教育	物流大学校講座、物流技術管理士講座、オンライン英会話、通関士養成講座、テーマ別オンライン研修など

新入社員研修



社内研修



新任ブロック長研修



□ ブロック長育成活動

現場の第一線監督者（新任ブロック長対象）を主体とした技能職・乗務職に、「安全・品質・生産性」の向上を目的として、1 ヶ月に亘り座学と現場実習を実施しています。

座学では、TPS（トヨタ生産方式）の考え方を基とした習得を行い、現場実習では、「現場からの学び」を題材とし、現場に寄り添った教育による実務習得を実践しています。

改善マインド向上活動 役員報告



また、研修2年経過後、改善意識の呼び起こしと仲間意識の醸成による組織力の向上を狙いとして、マインド向上活動（遠方営業所で2泊3日の改善実践活動）を実施しています。

今までの経験や学んだ事を活用して議論、共有することで、マインド（気持ち）に変化（刺激）を持たせ改善の活性化を図っています。

トヨタ生産方式自主研究会の職場研鑽会



□トヨタ生産方式自主研究会の職場研鑽会

トヨタ生産方式自主研究会の活動拠点となった職場で、研鑽会を開催しています。

職位を問わず「改善職場関係者の活躍・考え方・進め方」などを現地で説明する事で、職場改善の活動活性化に向けた横展開を、継続して取り組んでいます。

からくり展示会



□からくり展示会の開催

「見て」「触れて」「体感」できるからくり展示会を開催し、作業負担の軽減につながる作業に、からくりを組み入れた道具を展示して改善意識の向上につなげています。

誰でも「見て」「触れて」「体感」出来るようにして、からくり(道具の工夫)の浸透を今後も図っていきます。

新任グループ長研修



□グループ長研修活動

現場の第一線監督者（新任グループ長対象）にブロック長をサポートできる人材を育成し、現場力の向上を目指していきます。

現状のKJI、作業要領書、異常の単元に加えKJ法、TPS、道具立て、5Sといった現場に必要な単元を追加し研修日程も1日から3日に変更し25年度より実施しています。

実技演習を通じ学ぶ受講生



講義内容も講義を聞いているだけの受動的体系から実技演習を取り入れた能動的なカリキュラムとして講義を実施しています。

□取得資格

特定の資格取得・受講に対して、社員の申請に基づき一定の補助を実施しています。下記はその一例です。

内容
運行管理者・通関士・国内旅行業務取扱管理者・衛生管理者（第一種）・安全管理者・
防火管理者（甲種）・危険物取扱者（乙種第4類）・はい作業主任者・積卸し作業指揮者・
床上操作式クレーン運転・玉掛け技能講習・物流経営士（物流大学校）・物流技術管理士

TOEIC 受験



□TOEIC 受験

国際物流の強化・グローバル人材育成のため、社内で若手を中心に定期的な TOEIC の受験を推進しています。

今後も社員の語学能力の向上を支援していきます。

■業務改善提案の促進目標

職場環境の安全性や物流効率の向上、環境負荷低減等を目的とした業務改善提案を、全社員が提出できるようにシステムで管理しています。提出件数は四半期ごとに集計し、各部署への働きかけを行っています。

□業務改善提案の促進目標と結果

項目	2025 年度目標	2025 年度結果	2026 年度目標
業務改善提案件数	4,735 件	5,103 件	5,269 件

□提案グランプリ賞

提案者個人の提案評価点を累計した通算点数に応じ、提案グランプリ賞を授与しています。

項目	ダイヤモンド賞	金 賞	銀 賞	銅 賞	合 計
2025 年度受賞者数	9 名	20 名	43 名	57 名	129 名
受賞者数累計	75 名	187 名	384 名	820 名	1,466 名

■ QCサークル活動の推進

活動を通じて、QCサークルメンバーの能力向上、明るく活気に満ちた職場づくりを推進しています。

小集団で業務の最適化・効率化に約1年間取り組み、QCサークル大会に向けた活動を行っています。

2025年12月6日に第13回QCサークル大会が開催され、代表の9チームによる発表の結果、西尾東物流センター管理課が優勝しました。

表彰	部署
優勝	西尾東物流センター管理課
2位	田原物流センター営業3課
3位	電子デバイスセンター

優勝 西尾東物流センター管理課



QCサークル大会



■ 各種制度

社員が仕事と生活を両立できる働きやすい職場づくりに努めています。

「育児休業制度」や「介護休業制度」など、小さな子供や介護の必要な家族がいる社員を対象に、様々な制度を定め推進しています。

小学校就学前までの勤務時間の短縮制度に加え、小学校3年生までは働き方を変えて継続して働ける制度を独自に設けています。

2025年10月より、働きながら安心して育児できる環境を整えるため、新たに「養育両立支援休暇」を設けました。今後も多様な働き方を実現できるよう、制度の充実に取組んでいきます。

区分	制度	内容
育児	育児休業	最大子供が2歳まで休業できる
	時間外労働・深夜業の制限	子供が小学校就学前まで制限できる
	所定外労働の免除・勤務時間の短縮	子供が小学校就学前まで短縮できる
	育児時短終了後のパートタイム社員制度	子供が小学校3年生まで利用できる
介護	介護休業	原則として通算93日まで休業できる
	勤務時間の短縮	3年間に2回まで短縮できる
両立支援	在宅勤務	自宅を就業場所として働くことができる
	時差出勤	通勤・退勤時刻を前後にずらすことができる
	各種休暇	介護・子供の看護休暇・ 養育両立支援休暇が取れる

□ 育児休業を取得しやすい職場づくり

社員が性別を問わず、育児休業を取得しやすい環境にするため、育児期の社員が安心して活躍し続けられるよう、制度の整備と職場風土の改善を継続的に進めています。

育児休業を取得する男性社員も多くおり、男女共に育児に参加しやすい職場となっています。

■ ダイバーシティの取組み

パンツの追加



□ 多様性に配慮した制服

多様な働き方や個々の価値観に配慮するため、これまでスカートのみとしていた一般職の制服のボトムスに、2025 年 12 月新たにパンツを導入し、ボトムスの選択制を導入しました。

今後も社員の声を反映させながら、より働きやすい職場づくりに取り組んでいきます。

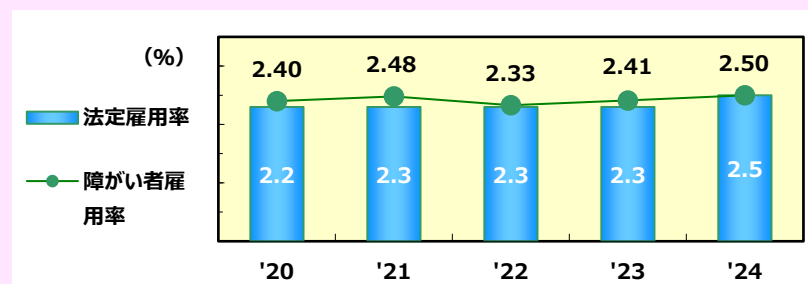
■ 障がい者雇用の推進

積極的に障がい者の採用活動を行い、雇用率の向上に取り組んでいます。

今後も引き続き、各特別支援学校への訪問、ハローワーク主催の面接会への参加等、障がい者雇用の推進していきます。

各職場の理解を深めるため、障がいについてまとめた冊子の配付などを行っています。

障がい者雇用率の推移（※1）



冊子の配付



■ 全社員の健康管理と事故防止

全社員の心身の健康維持と増進を目的として、毎年定期健康診断を実施しています。

二次健診が必要な社員には毎月受診案内を行い、二次健診受診率 100%達成を目指しています。

健康を起因とする事故の未然防止と、社員一人ひとりの健康管理に注力していきます。

□ 睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査の実施（※2）

睡眠時無呼吸症候群の影響による事故防止対策として、簡易検査装置であるスクリーニング検査機器を自社購入し、定期的に全乗務職に検査を実施しています。

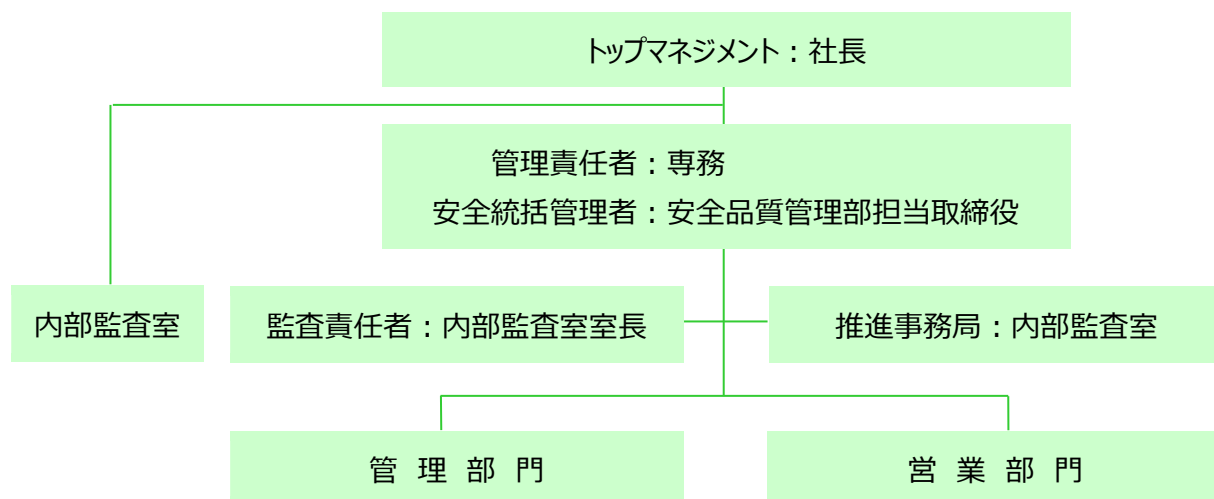
※1 データは 2024 年度現在。2025 年度は集計中

※2 睡眠中に無呼吸が断続的に繰り返される病気。その結果、日中に眠くなる、集中力や活力に欠けるなどの状態が生じる

5. コーポレートガバナンス

(1) マネジメントシステム

品質・環境・道路交通安全マネジメントシステム推進組織



■ 内部監査の実施

営業所の現地確認



毎年、内部監査を実施し、マネジメントシステムの有効性を確認しています。

発見された問題に対しては是正処置を実施し、また内部監査員から改善アイデアについての助言を行い、マネジメントシステムのレベルアップにつなげています。

■ 外部認証

Gマーク



□ 安全性優良事業所として認定（Gマーク）

G マーク（安全性優良事業所）とは、荷主のみなさまが安心して選べるように、全日本トラック協会が安全面を厳しくチェックして認定する制度です。

車両を所有する 18 の事業所が認定を受け、安全運行に努めています。

□ 外部認証機関による ISO 審査

年 1 回、外部認証機関による、品質・環境・道路交通安全に関する ISO 審査を受け認証を継続しています。検出課題に対しては、是正処置・水平展開を行い、マネジメントシステムの維持・改善を実施しています。2025 年度末現在、ISO9001（品質）、ISO14001（環境）は本社及び電子デバイスセンター等の 31 拠点にて、ISO39001（道路交通安全）は岡崎営業所等の 4 拠点にて認証登録を受けています。

(2) リスクマネジメント

事業継続を困難とする地震・台風・水害・感染症等に備え、人命・健康を最優先とした BCP（※1）の策定に取り組んでいます。

防災対応力の向上を目的として、防災訓練や大規模地震対応ガイドの展開等、様々な取組みを進めています。

■ 事前対策

□ 防災マニュアルの制定

南海トラフ巨大地震を想定した、大規模地震対応ガイドを制定しており、地震対策の全体を理解するために活用しています。

□ 防災対策用品の整備

災害発生時に備え、各事業所に簡易トイレ、発電機、非常食などの防災対策用品を確保しています。

定期的に点検を行い、非常時に使用できるよう維持管理をしています。

□ 倉庫の震災対策

倉庫の震災対策として、製品の転倒・落下、棚の転倒防止対策を進めて、安全面の向上に努めています。具体的な取組みとして、スライド扉・側面ネットの設置、ストッパーや連結パイプの取付け等を実施しています。

□ 水害対策

豪雨や台風による水害対策の強化のため、全事業所に土のう袋と砂袋を配備しています。

また、年 2 回の施設点検を実施し、雨どいや水路の確認をしております。

土のう袋の使用方法和手順について資料を展開し、模擬訓練などで事前準備することで有事に備えています。

□ 防火対策

各事業所で日常点検表を活用して、分電盤類の清掃や漏電などの日次点検と巡回点検の実施・出入口や通路に物を置かないようにし、避難通路を常に確保するなど事業所や倉庫等、施設からの火災発生予防に向けた取組みを徹底しています。

社員への防火意識の向上のため、啓蒙資料や防火ポスターを掲示しました。

□ 情報システムの対策状況

事業活動の継続に情報システムの維持は欠かせません。

業務システムとバックアップを最高レベルの BCP 対策が施されたデータセンターにて稼働、バックアップの 2 重化などの災害対策を実施し、震災等に備えています。

今後も最新の IT を研究・導入し、BCP を強化するとともに、物流企業としてサプライチェーンの安定供給における一端を担い、全社一丸で取り組んでいきます。

大規模地震対応ガイド



※1 企業が自然災害・大火災・テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合に早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段などを取り決めておく計画

□サイバーセキュリティ対策

サイバーセキュリティ対策として、EPPに加えてEDRなど最新のセキュリティ対策を導入しています。

EDRはマルウェアの侵入を検知し駆除や被害の最小化、迅速な復旧を支援する仕組みです。

また、外部のセキュリティ対策専門組織にて、社内のセキュリティ状況をリアルタイムで24時間365日監視するサービスを導入しています。

情報セキュリティ教育資料

1. 導入(3)在宅勤務について

現在、在宅勤務の実施により、社外でモバイル端末（モバイルP.C.スマートフォン等）を業務利用される方が増えています。社外での端末の利用、管理には充分注意してください。

在宅勤務で端末を持ち出す場合
・盗難、紛失、盗み見等に備え、社外秘データをパソコン上に保存しない
・交通機関での移動の際は必ず手元に置き、取り扱いに注意する（機密に当たらない）
・自宅以外（喫茶店や公共の場など）で使用しない

不特定多数の出入りする場所での利用、フリースポット等への接続は、ウイルス感染や情報漏えいの原因となります。安全と思いません。業務端末を接続しないように注意して下さい。

半導体漏えいが公衆されている為、犯罪者がデータベースを盗取したり、通信を傍受する事が可能に可成り

犯罪者が通信傍受ウイルス拡散！



対策の一環として、セキュリティ被害によるシステムダウン時の運用フロー作成、代替運用の準備による被害影響の最小化の対応、バックアップの2重化・複数世代管理、全社員に対して「情報セキュリティ教育」を毎年実施し、適切な情報資産の取扱い、コンピュータウイルス感染防止や感染時の対処等を教育しています。

社員一人一人のセキュリティ意識レベル向上のため、定期的に本物同様の挙動をするウイルスメール訓練を行い、決められた対応を理解し正しい行動ができるか確認しています。

□全社一斉防災訓練

災害対策組織を編成し毎年定期的に訓練を行うことで、万一の災害に備えています。

2025年9月、カリツー全社で、地震の発生を想定した一斉防災訓練を実施しました。

訓練では、避難訓練の実施、緊急地震速報装置のテスト放送訓練、セコム被害状況を活用した被災状況報告訓練、IPトランシーバーを使用した災害状況報告訓練、セコム安否確認訓練、防災管理指示書の見直しなどが行なわれました。定期的に防災訓練を行なうことで、より良い防災体制を築いていきます。

カリツービル防災避難訓練



□カリツービル防災避難訓練

2026年3月、地震の発生を想定したカリツービル防災避難訓練を実施しました。

訓練では、一時避難場所への避難訓練、「職場で取組む防火管理」ビデオの視聴などが行われました。

□安否確認システムと安否確認訓練の実施

企業の危機管理の一環として、災害時における社員と家族の安否を確認するために「セコム安否確認システム」を運用しています。全社員の安否確認を確実に行うため、各四半期末に繰り返し訓練を実施しています。

2025年8月、セコム公式LINEアカウントとの連携が可能となり、利便性と通知の確実性が向上しました。

非常用発電機



□非常用発電機の設置

非常用発電機の導入により、停電時でも安定した事業継続が可能な体制を整えています。

BCP強化を通じて、災害時にも信頼性の高い物流サービスの提供に努めています。

(3) コンプライアンス

コンプライアンスは CSR 経営の基盤と捉え、その磐石化に努めています。

特に、貨物自動車運送事業者として、公道を使用させて頂いているという意識を持ち、トラックドライバーの「改善基準告示」への対応をはじめとする関連法令の順守だけでなく、運転マナーの向上にも積極的に取り組んでいます。

■ 法令順守に向けた取り組み

□ 2024 年問題への対応

2024 年 4 月からトラックドライバーの時間外労働時間の上限規制が適用されたことで、ドライバー不足、輸送能力の低下、輸送コストの増加、などが物流業界全体の課題となっています。

これらの課題に対し、継続的な対応を進めています。

具体例として、長距離便の中継地を整備し、乗継輸送に対応することで効率的な輸送を実現し、乗務職の時間外労働時間の削減を図っています。

また、自社車両だけでなく、協力会社車両についても、当社に関係する労働時間の実態と管理状況を調査した上で配車全体を見直すなど、運行管理の強化に努めています。

結果、2025 年度についても違反者を出さずことなく業務に対応することができています。

□ 法令順守監査の実施

毎年、「法令順守チェックシート」を更新し活用することで、社内の法令順守状況の確認をしています。

各部署でセルフチェックを行い、その結果をもとに法務課が現地監査することで、関連する法令の順守状況の確認、不適合項目の是正・フォローを実施しています。

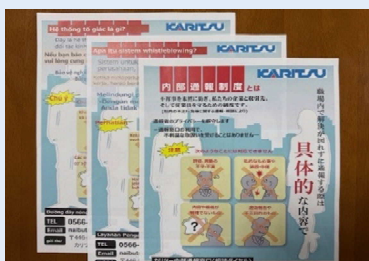
同時に、社内関係部署と情報を共有することで、会社全体の法令順守意識の向上に努めるとともに、法改正にも都度対応し、社内への情報発信や必要に応じた教育を実施しています。

□ 社内教育資料の展開

重要法令やコンプライアンス関連の教育資料を作成し、社内の研修や、情報発信に活用しています。

特にコンプライアンスについては、階層別研修（新入社員・中堅社員・管理職）や、社内で問題となる事例をテーマにした管理者研修を定期的実施することで、コンプライアンス意識の向上に努めています。

窓口周知ポスター



□ 社内相談・内部通報窓口の設置

全ての社員が安心して働きやすい環境を構築するため、ハラスメント等に関する相談や法令違反行為などの相談・通報を受け付ける社内窓口を設置し、適切に対応しています。

この窓口は、ポスター等で全社員に周知されており、インドネシア語およびベトナム語にも対応することで、多様な背景を持つ社員が安心して利用できる体制を整えています。

□ 個人情報保護の取り組み

事業活動を通じて得た個人情報の保護に努めることを社会的責務と認識し、情報主体をはじめ広く社会からの信頼を得るために、個人情報保護方針と個人情報保護規程を定め、個人情報の保護に努めています。

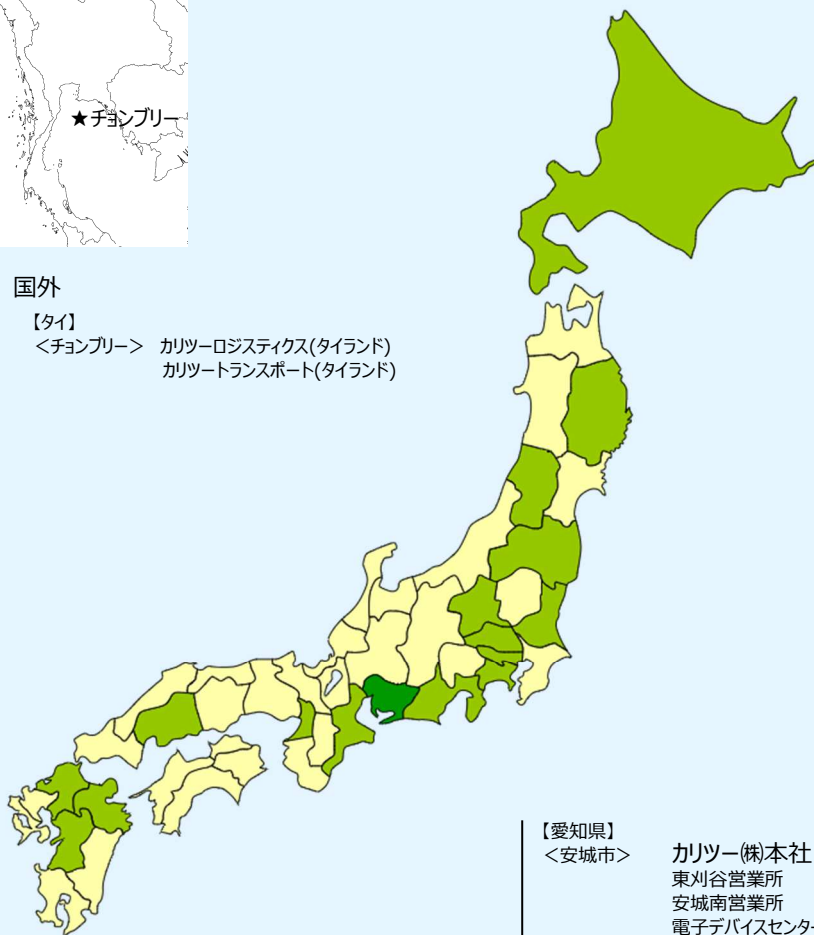
営業拠点一覧



国外

【タイ】

＜チョンブリー＞ カリツーロジスティクス(タイランド)
カリツートランスポート(タイランド)



国内

【北海道】	カリツー北海道 本社営業所
【岩手県】	カリツー東日本 岩手金ヶ崎物流センター
【山形県】	カリツー東日本 山形出張所
【福島県】	カリツー東日本 郡山本社 カリツー東日本 郡山南営業所
【茨城県】	茨城営業所
【埼玉県】	埼玉営業所
【群馬県】	群馬営業所
【東京都】	東京オフィス
【神奈川県】	神奈川営業所
【静岡県】	静岡営業所
【三重県】	三重いなべ営業所
【大阪府】	大阪営業所
【広島県】	広島海田物流センター 広島志和営業所 広島西条営業所
【福岡県】	カリツー九州 北九州営業所 カリツー九州 宮田物流センター カリツー九州 苅田営業所
【大分県】	カリツー九州 大分中津営業所
【熊本県】	カリツー九州 熊本菊池物流センター

【愛知県】
＜安城市＞

カリツー(株)本社
東刈谷営業所
安城南営業所
電子デバイスセンター
高棚デバイスセンター
東端物流センター
高棚配送センター
カスタマーロジセンター70
安全教育研修センター

＜刈谷市＞

刈谷北営業所
刈谷中央物流センター
刈谷物流センター
刈谷西物流センター
小垣江物流センター
ロジテム小垣江

＜知多郡＞

衣浦物流センター

＜名古屋市＞

名古屋オフィス

＜豊田市＞

岡崎物流センター

＜みよし市＞

豊田西物流センター
みよし物流センター

＜岡崎市＞

岡崎営業所
岡崎東営業所
ロジテム岡崎

＜西尾市＞

西尾東物流センター
西尾営業所
西尾北物流センター

＜豊橋市＞

豊橋営業所

＜田原市＞

田原物流センター

＜海部郡＞

名港営業所



カリツー株式会社

お問合せ先：経営企画管理部 企画管理室

〒446-8540 愛知県安城市三河安城町一丁目 4 番地 4

TEL (0566) 73-5619 FAX (0566) 73-5627

URL : <http://www.karitsu.co.jp/>

2026 年 7 月発行